

絹遺産を制服に
～群馬絹遺産の特徴を生かして制服を作る～

14期生 2年2組27番 長沼文佳

1 研究の目的

この研究の目的は二つある。まず一つ目は群馬絹遺産の注目度を上げることだ。2017年3月の上毛新聞に掲載されていた群馬絹遺産への入場者数の減少を表すグラフを見たことで、何とかして群馬絹遺産への来場者数の減少を食い止めなくてはならないと思った。そのためには、2014年に世界遺産に登録されてから年々下がってきている注目度を再び上げることがよいと考えた。二つ目は群馬の製糸に関する伝統技術の保護だ。昨年伺った伊勢崎織物会館の方が、伊勢崎銘仙の生産は途絶えかけてしまっているとおっしゃっていたので調査したところ、伊勢崎銘仙以外にも群馬の製糸に関する伝統技術が途絶えかけてしまっていることが分かった。そこで、これらの技術を保護し、伝承出来るようにすることを研究の目的とした。これらの目的を達成するために私が選んだ方法は制服の作成だ。制服を作ることには3つのメリットがある。一つ目は、10代をターゲットに出来るということだ。制服を着るのは中高生であるため、絹遺産について十代に多く知ってもらえる。これから絹遺産を守っていくのは私たち中高生の世代なので、この世代の中高生に絹遺産を知ってもらうのは大切だと思う。二つ目はSNSでの情報の拡散だ。近年、10代のSNS利用率が急増する中で、女子中高生を中心に制服を着て出かけて写真を撮り、その写真をSNSにアップするということがはやっている。これを利用して、作った制服を着て撮った写真をアップしてもらうことで、制服を通して日本だけでなく、世界の人にも群馬絹遺産に興味を持ってもらえると思う。三つめは伝統技術の保護だ。目的にも合った通り、群馬の絹産業に関する伝統技術が途絶えかけている。その原因の一つとして需要の低下があげられる。そこで、制服として銘仙を利用することで、一定の需要が生まれるのではないかと考えた。これらの理由から、群馬絹遺産に関するデザインや素材を利用した制服を作ることで絹遺産をPRできると考えた。

2 研究の方法

この研究では、デザインと素材に分けて研究する。

(1) 情報収集

インターネット、文献等で以下のことを調べる。

- ・当時（明治時代初期）の女性の服装
- ・絹遺産に関する布地の特徴
- ・中高等学校の制服について

現地調査にて、次のことを調べる。

- ・伊勢崎銘仙について(伊勢崎織物会館、明治館にて)

(2) 考察、結論

- ・生地を選ぶ
- ・デザインを考える

3 研究の成果と課題

制服を作るにあたって、まずデザインから考えた。この制服を着用したり見たりすることで群馬の製糸の歴史を学べるようなデザインにしようと考え、取り入れたのは当時富岡製糸場で働いていた女工の袴スタイルだ。この袴スタイルは女性からの人気が高くて、富岡製糸場の周辺では袴の体験ができる店も多くある。人気の高い袴スタイルをデザインに取り入れることで、制服のデザイン面でも人気を高めることが出来るのではないかと考

えた。今回袴をモチーフにしてデザインしたのはスカートだ。基本的には中央中等の制服にも取り入れられているプリーツスカートで、色とベルトを工夫した。色は、当時女工が実際に身に着けていたものから出来るだけ近づけようと思い、当時の富岡製糸場の様子を描いた「工女勉強之図」、「上州富岡製糸場之図」という二つの錦絵をもとにして、紫、青、緑の三色に決定した。なお、この三色は生徒が自由に選択することが出来るようにする。近年、いくつかある制服から自由にコーディネートするというシステムの学校が増えており、このシステムによって自らの責任で判断し、行動する力を養うという目的があるそう。また、ベルトには袴の特徴的な帯の結び目をモチーフにしたデザインを取り入れた。袴の帯の結び方はリボン結びを少し変えるだけなので簡単に結ぶことができ、制服のベルトにも取り入れられると思う。

次に制服の素材を考えた。素材には絹を使用するだけでなく、伊勢崎銘仙も取り入れようと思う。一般的に制服の素材はポリエステルか、ポリエステルとウールの混紡素材の2種類が多く用いられる。これらの素材に比べて絹は洗濯しづらく、摩擦に弱く、変色しやすいなどと制服には不向きだ。そこで他の素材との混紡に多く用いられるポリエステルを絹と混紡した素材を使用したいと思う。ポリエステルと絹の混紡素材はスーツなどにも用いられることがあるため、制服にも向いていると考えた。また、伊勢崎銘仙の鮮やかな模様を生かしてリボンを作ろうと思う。

この研究の課題は主に2つある。一つ目は価格だ。絹を使用するという事は、当然一般的な制服よりも価格が高くなってしまふ。そこで私が中村先生のご意見をもとに考えたのが、素材を選択できる制服である。同じ学校で同じデザインの制服でも、素材の違う2種類のものを用意し、自由に選択できるようにする。今回はウールとポリエステルの混紡素材を使用した一般的な価格のものと、絹とポリエステルの混紡素材を使用した少し高いものの2種類を用意することにした。このようにすることで、強制的に価格の高い制服を買わせるのではなく、希望する人だけが買うことが出来るようにした。近年、「プチ贅沢」という風潮が広まっていて、「たくさん使うものなら、少しお金を多く出して少し良いものを」という考えを持つ人が増えている。また、制服を兄弟や親せきにゆずって長く使うために、良い素材のものを選びたいという人も多い。これらのことから、高いほうの制服を買う人も一定数出てくるだろう。さらに、絹が混紡されている素材の制服にワンポイントを付けることで、周りから見てもどちらの素材のものを着ているかがわかり、見栄も相まって高いほうを買う人が増えるのではないかと考えた。二つ目は、全国に広まりづらいということである。いくら SNS で拡散するといってもそれほど広めることはできないだろう。そこで考えたのが中高生向け洋服ブランドとのコラボだ。近年では首都圏を中心に制服のない学校が増えていて、このような学校の生徒向けに「制服のような私服」を販売しているブランドがある。このブランドとコラボして、女工の袴をモチーフにしたスカートや、絹を使用した素材の服を販売することで群馬だけでなく、全国的に群馬絹遺産の魅力を広められるのではないかと考えた。

ほかにも、技術が途絶えかけている中で制服の素材を作り続けられるのか、考えたデザインが実現可能なのかなどいくつかの課題はある。だが、これらの課題を解決すれば、群馬絹遺産の注目度を上げ、伝統技術を保護することにつながるだろう

4 文献

- ・『上毛新聞』2017年3月4日
「富岡製糸場3割減 16年度見通し 登録2年、ブーム失速」
- ・「明治時代における服装の特徴は和洋折衷が当たり前？（明治時代を学ぼう HP）」
(4月11日) <<https://www.meiji-jidai.com/>>
- ・「近代女子袴の歴史（綺陽装束研究所 HP）」(9月21日)
<<http://www.kariginu.jp/>>
- ・「しるくるとみおか（富岡市 HP）」(7月17日)
<<http://www.tomioka-silk.jp/>>

- ・伊勢崎織物会館のお話
- ・「シルクの特徴とメリットデメリットについて（ダイヤクリーニング HP）」（10月9日）
- ・「ポリエステルとウール混、学生服の素材を選ぶならどっちがいい？（お洗濯.netHP）」（9月21日）〈<https://www.o-sentakku.net/>〉
- ・錦絵「工女勉強之図」「上州富岡製糸場之図」